

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度技術情報第4号（ナシの黒星病）について（送付）

黒星病の発生が、5月に入り急激に増加しています。今後も感染しやすい気象条件が予想されますので、感染拡大を防ぐために定期的な予防散布に努めてください。

平成28年度技術情報第4号

1 対象害虫 黒星病

2 対象作物 ナシ

3 発生地域 県本土

4 発生量 多

5 情報の根拠

(1) 5月上旬の発生ほ場率（臨時調査）は、葉70%・果実100%であった。5月中旬（巡回調査）の平年値（葉80%・果実59%）と比べると葉では平年より低いものの、果実では既に高くなっている（図1）。

(2) 葉・果実ともに既に発生程度が高いほ場が見られる（図1，3）。

(3) 4月以降に降雨が多く、感染に好適な濡れ条件（20℃では9時間）が多かった（図2）。また、気象庁の今後1か月予報でも、平均気温は高く、降水量は平年並みか多い見込みである。

6 防除上注意すべき事項

(1) 防除は、約10～14日間隔で予防散布を行う。また、農薬散布は天気予報に留意し、降雨前に行う。

(2) 発病果および発病葉は、伝染源となるのでほ場外に持ち出し処分する。

(3) 「幸水」の多発園では、果実への後期感染が懸念されるので、袋かけ前に輪紋病と同時防除できるSBI剤を散布する

(4) 使用薬剤は、同一系統薬剤の連用を避け、作用性が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

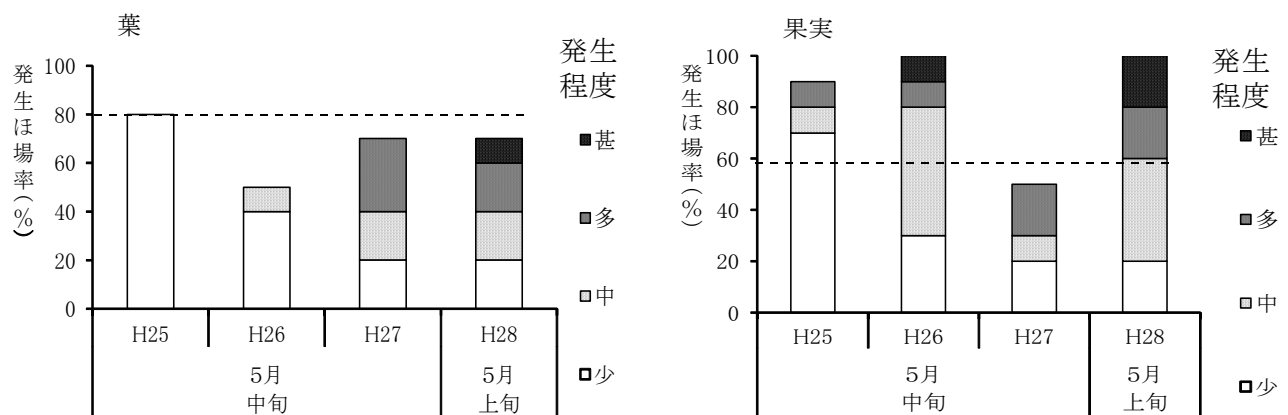


図1 発生ほ場率と発生程度（右:葉，左:果実）

注）点線は発生ほ場率の平年値

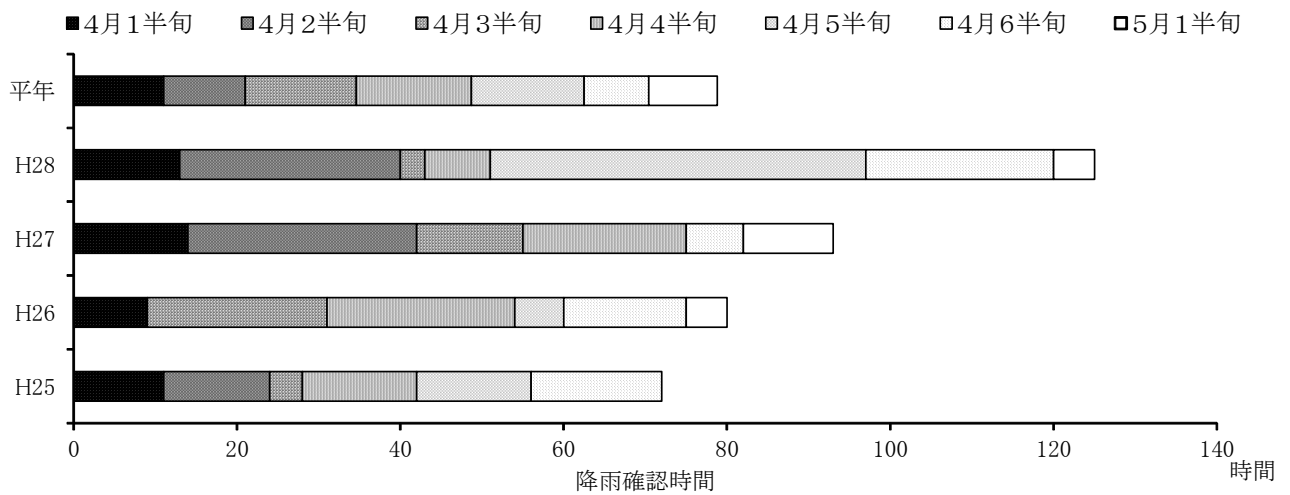


図2 アメダス「さつま柏原」の半旬別の降雨確認時間（4月第1半旬～5月第1半旬）
 注）平年は，平成18～27年の平均値
 降雨確認時間は，1時間ごとの値で降水量が確認された時間の積算値



図3 黒星病の感染した葉と果実（上：甚発生ほ場，下：中発生ほ場）（平成28年5月2日撮影）